

全教第 37 回定期大会アピール

ウソとごまかしを繰り返し、深刻な政治の腐敗と劣化を引き起こしている安倍政権のもとで、国民の政治不信が生み出されています。しかし、市民と野党の共闘は確実に発展・深化しています。私たちが声を上げ市民と野党が呼応し共同して行動すれば、政治を変えることができることを、大学入試をめぐるとりくみなどが示しています。多くの青年が教育無償化やジェンダー平等、地球温暖化対策を求める運動などで自分の言葉で声を上げている姿に、立憲主義・民主主義を回復し個人の尊厳を尊重する新しい政治を築く希望が表れています。

いのちを削るような長時間過密労働の解消は待ったなしの課題です。今こそ、競争主義的政策の見直しとともに教職員定数改善が求められます。「せんせい ふやそうキャンペーン」には幅広い教職員や父母・保護者、国民からの願いが寄せられています。1日8時間労働の原則をなし崩しにし、いっそう長時間過密労働をすすめる「1年単位の変形労働時間制」について、多くの地域・職場からのとりくみを力に、その問題点を国会で明らかにしました。大会討論を通じて、各地での導入を許さないとりくみが豊かに交流されました。今、ハラスメントをなくし、人間らしく働くことができる職場と社会をつくるため、教職員組合が力を発揮する時であることが鮮明になりました。

子どもの暴力件数やいじめ、登校拒否・不登校件数が過去最多となっています。国連子どもの権利委員会は「社会の競争的な性格により子ども時代と発達に害されることなく、子ども時代を享受すること」を日本政府へ勧告しました。しかし安倍政権は、公教育の市場化をねらい、官邸・経産省主導で「Society5.0に向けた人材育成」を押しつけています。子どもたちの実態から乖離した教育政策は必ず破綻します。子どもの発達段階との関連や教職員の専門性・自主性を保障すること等の観点から議論を広げましょう。

改訂学習指導要領がこの4月から小学校で本格実施されます。大会討論では、「学校スタンダード」や「マニュアル化」が息苦しい学校にしていることや、学校統廃合の実態などが明らかにされ、子どもたちの声を聴き一人ひとりの学ぶ権利を保障するとりくみが共有されました。

組織建設の「新たな3か年計画」を踏まえた各組織での議論と意思統一がすすんでいます。本大会までに9万人の総合共済を達成しました。大会では、各地から仲間の輪を広げる豊かな経験が報告されました。「モヤモヤとか疑問をどうにかしたい」などの青年の要求に根ざした学び合い語り合いの場をつくるとりくみが広がっています。職場の願いを出発点に、長時間過密労働解消のとりくみをすすめ、一人ひとりの子どもを大切にする教育を守り発展させるとりくみをすすめる全教・全教共済の魅力は鮮明です。全教・全教共済をいっそう強く大きくする条件と可能性が広がっています。「見える職場活動」を基礎に、「集まる」「話を聞く」「語る」「つながる」とりくみをすすめ、「TANE！」in 沖縄を成功させ、10万人対話で現勢を回復し、純増に向かうとりくみを成功させましょう。

全教は2020年度、結成30周年を迎えます。結成以来、憲法や子どもの権利条約にもとづく教育の推進、平和や民主主義の擁護、教職員の労働条件の改善等を高く掲げ、日本の教育運動や労働運動等において大きな役割を担ってきました。今、平和憲法を敵視し、教育を歪める策動が強まっているもと、本大会でも「学校で、地域で、おおいに憲法を語ろう」と安倍9条改憲を許さないとりくみが交流されました。今こそ全教の役割と魅力を存分に発揮し、一人ひとりが大切にされる学校とだれもが人間らしく働くことができる職場・社会をつくり出すことが求められます。

全国の教職員のみなさんに心から呼びかけます。憲法と子どもの権利条約をいかし、すべての教職員がいきいきと働くことができる学校・職場をつくるとりくみを、力をあわせてすすめようではありませんか。